

## 公開講座活動報告

法人・団体名 茨城県母性衛生学会

テーマ 父になる 父を支える 父とともに

講師

① 特別講演 「現代社会と父性」

講師 秋山 邦久先生（常磐大学人間科学部心理学科教授 公認心理師）

② シンポジウム 「父を支える仕組みを作る」

講師（司会）浦山 理絵（ひとづくり工房 esuco）

講師 大井 雄一（筑波大学 産業精神医学・宇宙医学グループ 助教）

講師 金澤 悠喜（筑波大学 ウィメンズヘルス看護学・助産学 助教）

講師 山田 千恵（つくばセントラル病院 前病棟師長 助産師）

講師 佐藤差智子（守谷市保健センター 保健師）

講師 勝田 達也（土浦五中おやじの会）

開催年月日 令和元年9月28日（土）14時～17時10分

会場 茨城県立医療大学 講義棟 大講堂

---

### 講演概要

今回の学術集会のテーマは、「父になる、父を支える 父とともに」としました。「母性」衛生学会なのに、「父性」に注目しようと思った訳は、妊娠・出産・子育て期を通じて、母子に関わる人が多いのですが、「父」は少し取り残されているように思われることがしばしば感じたためです。父を理解することが支援になると思いました。

このテーマに基づき、特別講演には常磐大学人間科学部心理学科教授 秋山邦久氏に「現代社会と父性」と題し心理学的なアプローチについて講演を依頼しました。秋山先生のご講演は軽妙な語り口で、まるで落語を聞いているかのように笑ったり聞き入ったりと、先生と会場が一体となった不思議な空間になりました。時間の制限があつて、最後は駆け足となってしまい、事後アンケートでも「もっと聞きたかった」「来年も秋山先生の講演をお願いします」という声が多数ありました。同じ言葉でも前後の状況や立場によって認識が異なること、「文脈」を理解することについて、最初に様々な例をあげて説明していただきました。年齢や立場、育った環境が違う場合、発達障害がある場

合などさまざまな例を挙げて、相手が同じ文脈にいるかどうかを確認することが大事ということを繰り返しお話されてきました。また、スキルが無い（生育環境のため得ることが出来なかったなど）方に、単に傾聴や励ましでは支援ではないということを教えて頂きました。父性は子どもを授かれば自然に湧いてくる生得的な能力ではなく、社会状況に応じて学習すべきスキルであります。そのような観点で父性をみると、「愛情があれば子育てができる」のではなく、「適切な子育てスキルを持ち、それを遂行している人を、愛情のある親と呼ぶ」という発想の逆転が児童虐待予防にも資することにもなるということを教えて頂きました。

続いて行われたシンポジウムでは、立場の違う5人のシンポジストに地域の中で「父を支える仕組みを作る」ためにはどうしたらよいかを発表する機会にしました。途中で会場の受講者も隣席の方と話し合う時間を作り、理解を深められるように配慮しました。事後のアンケートでも、「周りの参加者と何度も議論をしながら壇上の方たちのお話を聴き、全員が気付きや学びを得られていたと思います。」とあり、目的は達せた用です。子育て中の大井雄一氏からは自分自身の父親として変遷を中心とした話がありました。金澤悠喜氏は、夫婦二人から子どもを持った夫婦になった時に、夫婦にどのような変化が生じてくるのかという研究結果について報告してくれました。3番目の山田千絵氏には、病院の中で行っている父親支援の実際について事例の紹介や産後ケアについて話していただきました。また地域の子育て支援を行っている行政の立場から佐藤差智子氏に夫婦のコミュニケーションを重視している両親学級の実際をお話しいただきました。最後に地域の中で父親たちが集まる場である「おやじの会」のことについて、勝田達也氏に普段の活動などを紹介していただきました。学校に関するボランティア活動をしながら、「飲みにケーション」を楽しく行っているそうです。5人の演者の発表が終わって総合討論の時間には、その余波を受けてか、演者への質問のほか、就学前の父親のグループ作りなどを地域で行うのはどうかとか、結局大事なのは夫婦のコミュニケーションだと思うなどの意見が積極的に出て、建設的な議論になりました。

